Holtmont, Alfred

Die Hosenrolle ; Variationen über das Thema das Weib als Mann.

München, Meyer & Jessen, 1925. (文献番号5－130)

Hiler p.444

ホルトモント著

男役；男装女性の主題的変化について

本書は男役、つまり男装の女性についての主題上の変化を取り扱い、主に演劇を通して解説している。男役の歴史は象徴的な婦人服からの解放であって、あらゆる女性的なものの否定ではない。それは美的観点からすればはるかに魅力に富んだ印象を与えている。ズボンを着用した時の解剖学的構造、つまり男性より幅広い臀部(でんぶ)とくびれた膝(ひざ)、スカートをはいていればただかすかに示されるだけの輪郭が、あまりにもどぎつく現われてしまうという事実を悪趣味と取るのは、主観的で保守的な見解とみなさなければならない。男役を演ずることは、男のまねをする女性が俳優的才能を最大限に発揮して、婦人模倣者や女装男優が女性に対してなしうるよりもずっと深く、対抗意識を燃やしているのかもしれない。スカートを拒絶して、全く同一のいかなる点においても通常の男性用衣服と寸分違わぬ服を選び取ることは、完全に本来の性(女)であろうとするために、それとは別の性であるかのように見せねばならないからであろう。

本書の内容は、前篇で演劇以外の女性の男装を、序論、衣装としての女性ズボン、第1節・仮の性転換、第2節・スポーツ服とダンス衣装、第3節・アマゾン、第4節・宗教儀式の仮装とカーニバル、第5節・夢想家の夢、第6節・ズボン役に対する戦い、に分け、後篇では演劇上の男役の歴史を、第1節・文学的・文化的条件、第2節・ルネサンスとバロック時代の女性解放の舞台、第3節・近代女優の初登場、第4節・ロココ喜劇の主題と場面での性の協定、第5節・舞台の子供と少女、第6節・ロマン派の両性具有、第7節・軽歌劇、道化、バレーの男役、第8節・19世紀の男役、第9節・歌劇の声学上の音響型、結びとして現代女性の姿と改革、に分けている。

Mlle. Déjazet als Cadet Buteux in dem Vaudeville „Les Chansons de Desangiers"

図は本書の口絵、軽喜劇“ドザンジェールの小唄集”でのカデ・ビュト一役のデジャゼ嬢。